

経営比較分析表（令和4年度決算）

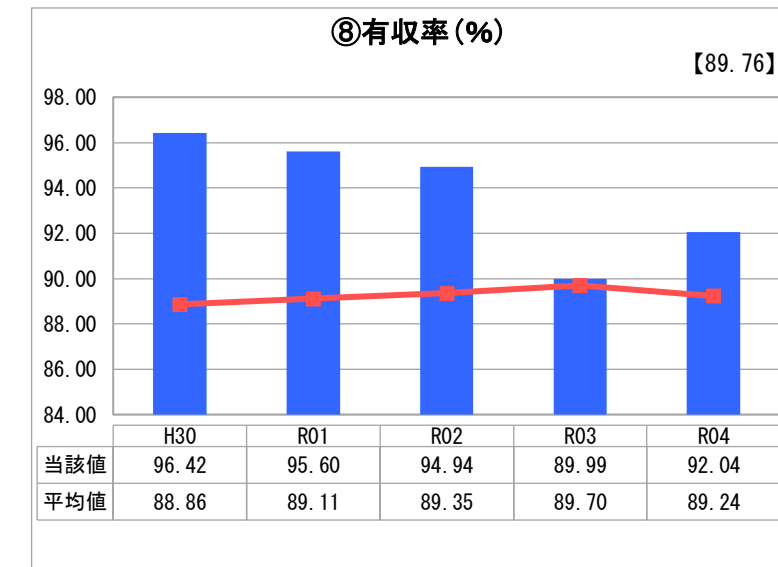
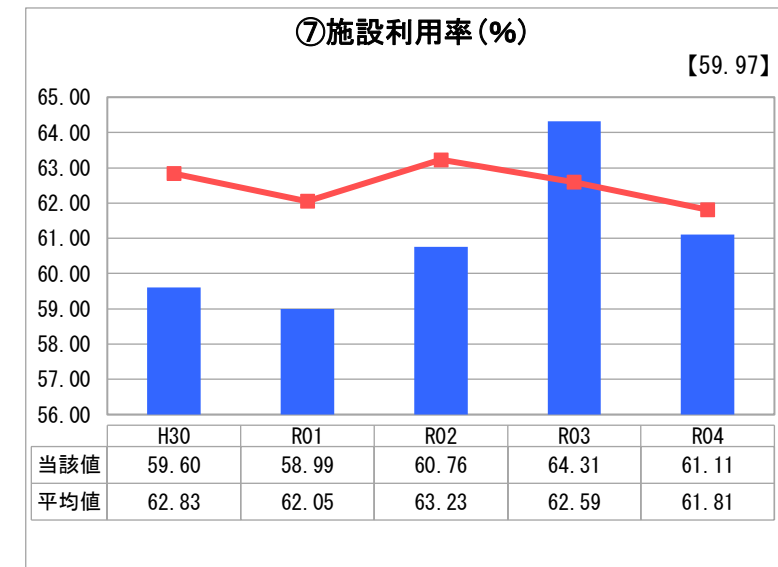
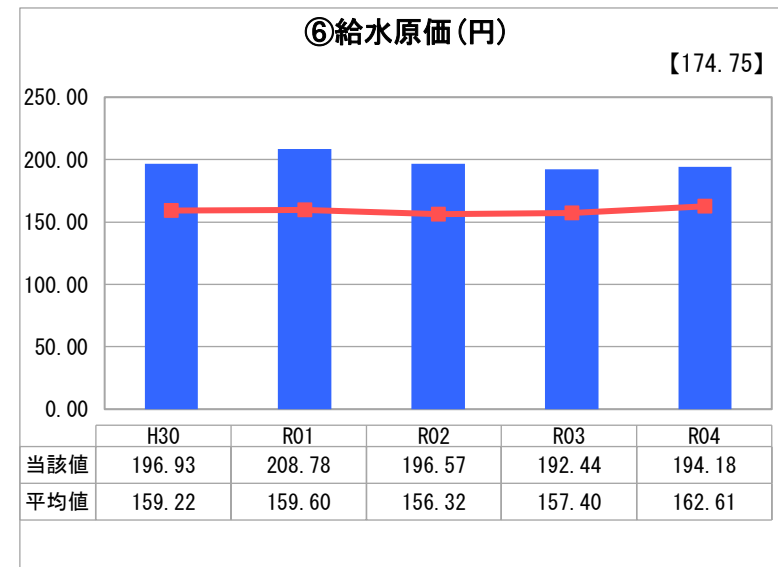
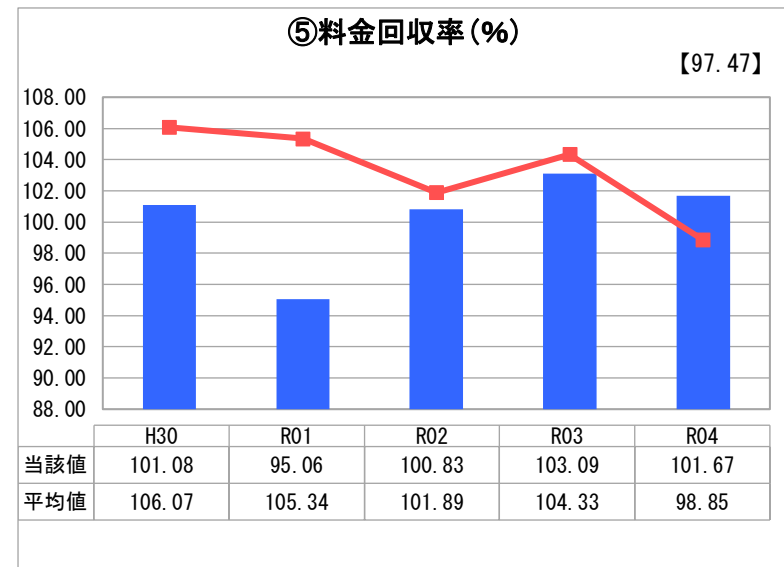
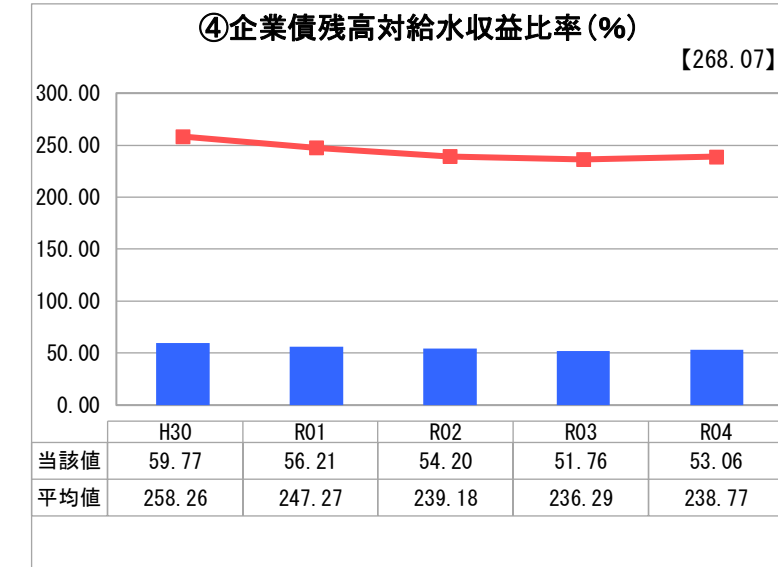
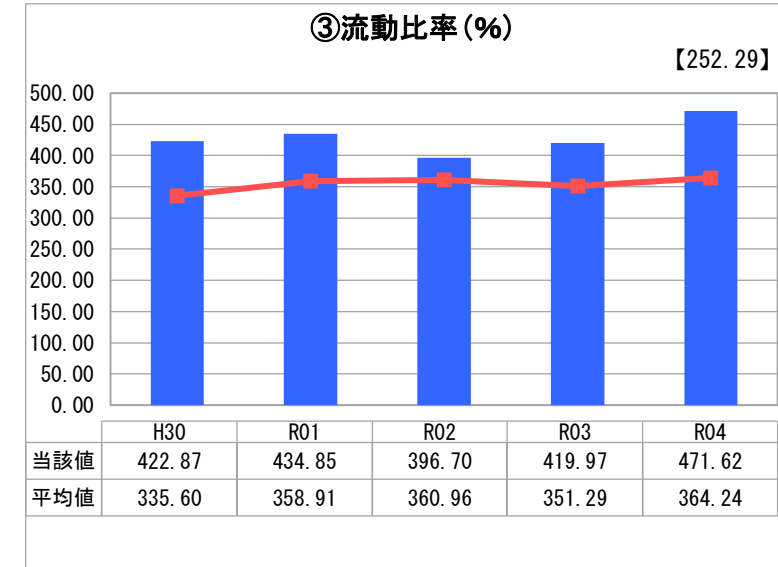
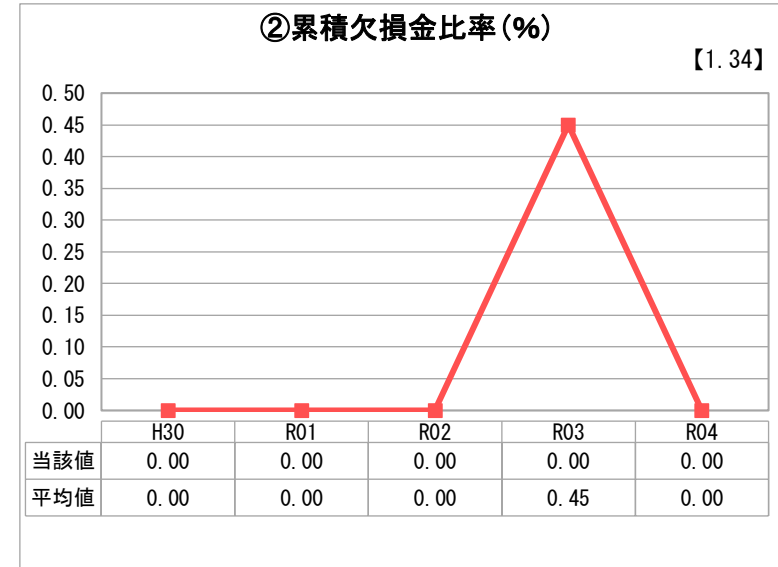
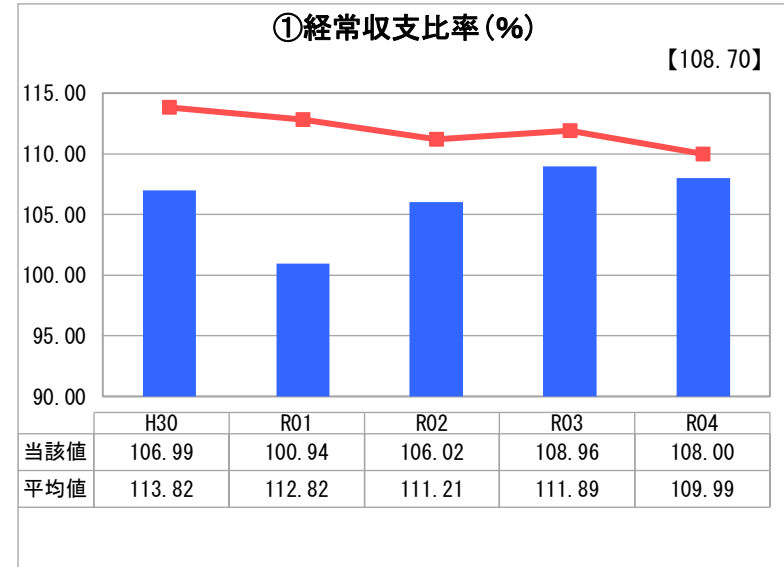
佐賀県 佐賀東部水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	83.36	92.98	3,960	

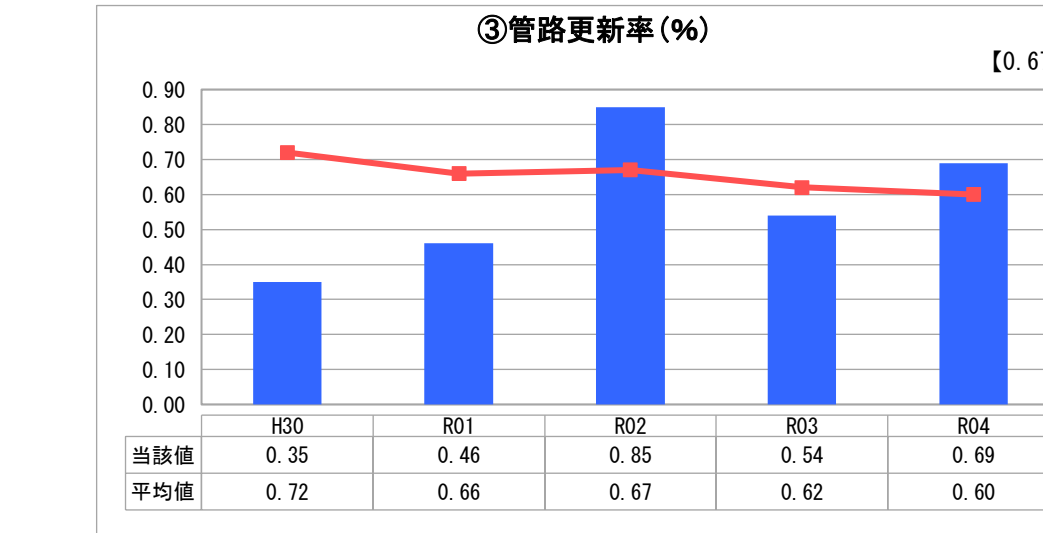
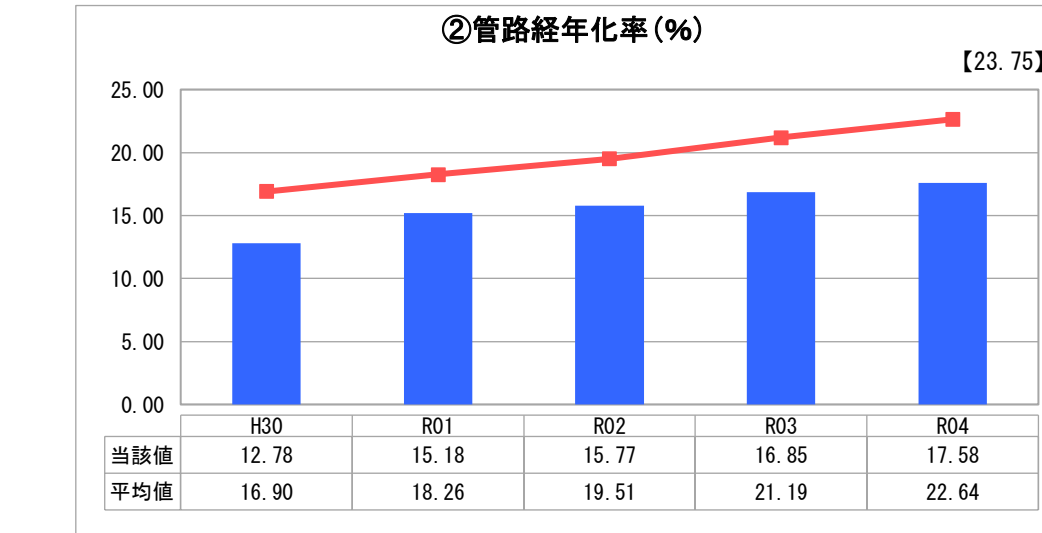
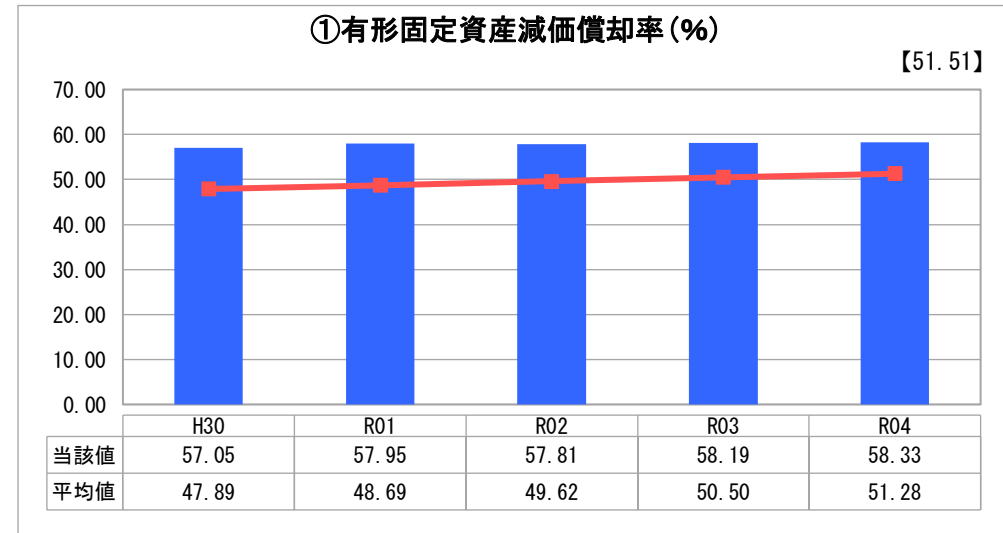
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
113,960	210.56	541.22

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は類似団体を下回り、料金回収率は上回っている。どちらも必要とされる100%を上回った。このことから収支が黒字であり、給水収益で給水に係る経費が賄えていることがわかる。
また、累積欠損金の計上はなく、流動比率も高い水準にあるため支払能力に問題はない。企業債残高対給水収益比率についても類似団体を大幅に下回っていることから健全性は確保されているといえる。
有収率は類似団体を上回っていることから漏水等は少ない。令和4年度の海苔の記録的な不作により海苔加工用水の需要が減少したことにより、施設利用率が下がり、類似団体を下回った。給水原価についても依然として用水供給事業側の資本費が他事業体より高いため類似団体を上回っている。これらから効率性は良い状態であるといえない。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率を見ると類似団体を上回っていることから老朽化が他事業体より進んでいる状態にある。
管路経年化率は、類似団体を下回っているものの、有形固定資産減価償却率の高さを考慮すると今後急速に上昇する恐れがある。全般に配水管は法定耐用年数以上に使用に耐えうるため、法定耐用年数よりも早く更新する計画は今のところ無いため、今後も確実に管路経年化率は上昇を見込む。
今後は、経費削減のため他の公共工事（公共下水道、道路改良工事等）に合わせて行ってきた老朽管更新に加え、事業進捗が円りやすい単独事業による老朽管更新や、令和2年度に着手した重要給水施設配水管耐震化事業に伴う更新を行っていく予定である。

全体総括

当企業団の末端給水事業は、現在の経常収支は黒字であり、累積欠損金は無く、現在は健全な経営状況にあるといえる。しかし、近年、燃料費、材料等の物価は上昇し、給水収益は減少が見込まれることから、今後も同様であれば、現在の水道料金では、数年後には経常収支は赤字となり、更に数年後には累積欠損金を生じる見込みとなる。今後、健全な経営を継続するためには、重点交付金等の財政支援を活用しつつ、適正な水道料金を設定する必要がある。
管路更新は、今後他の公共工事との調整を伴わない単独事業の老朽管更新が増えていくため更新率は上がる見込みである。なお、管路更新には、多大な投資額が必要となることから、将来の人口減少を考慮すると、ダウンサイジング等による建設コスト削減を図り効率的な事業経営を行う必要がある。
令和4年度より、広域連携に伴う事務関係システムの運用を実施しているが、その他の広域連携に向けて検討を継続する。